

令和 5 年 9 月 26 日

内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)」第 3 期課題の研究開発テーマに、本学が提案した「デジタル・シティズンシップ・シティ：公共的対話のための学校」が採択されました

内閣府が実施し、科学技術振興機構 (JST) が管理する「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)」の第 3 期課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」に、広島大学大学院人間社会科学研究科・教育ヴィジョン研究センター (EVRI) が提案した「デジタル・シティズンシップ・シティ：公共的対話のための学校」(研究開発責任者：教授 草原和博) が採択されました。

本課題 (「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」) には合計 36 件の応募があり、採択されたテーマは本学からの提案のほか、東京大学、京都大学など計 13 件で中国地区では唯一の採択となります。また、本学には 5 年間で 3 億 3600 万円の予算が配分されます。

本課題は、いつでも・どこでも自分の望む学び方・働き方を選択し、挑戦できる社会の実現を、そして Society 5.0 を生きる人々の多様な幸せ (well-being) を実現できるフラットな社会の実現を、目指すものです。

広島大学は、このねらいを、以下 3 つの取り組みから実現します。

- ① 個々の学校を拠点としつつ、個々の学校を超えた、市町を単位とする学びの場を構築すること。
- ② リアル／デジタル双方の空間を媒介にすることで、市町が直面する公共的課題について (多様な考えや利害を持つ) 子どもや市民が共に対話し、提案・行動できる資質を育てること。
- ③ ①②の実現を支えるカリキュラム、社会基盤、AI 学習支援システムを開発すること。

これらの取組を通して、新しい公教育のカタチを東広島市に具現化して参ります。本研究開発の成果は、将来の学校の適正規模・適正配置の在り方に一石を投じる可能性があります。東広島市に実装された新しい教育のヴィジョンと技術は、将来的に国内外の他地域にも展開される予定です。

【お問い合わせ先】

広島大学教育ヴィジョン研究センター 担当：草原
TEL：082-424-5265
E-mail： evri-info@hiroshima-u.ac.jp